

## 今年度のいじめアンケートの結果と対応について

令和2年度「いじめに関するアンケート」をいじめの早期発見のために生徒の人間関係等の実態把握に努めることを目的として高等部の生徒41名を対象に実施しました。

実施については、年に3回「いじめに関するアンケート」に基づき、学級担任が生徒ひとりひとりに面接を行い、「自分のこと」、「周りの人のこと」について実施しました。

実施の結果、いじめについて「ある」と答えた件数は 4件ありました。対象の生徒に丁寧な聞き取りを行い、その内容をもとにいじめ対策委員会で対応について検討し、「いじめ」として取り上げ具体的な指導をしました。

「ある」と言われた内容には、「挨拶をしても返してもらえない」、「悪口を言われる」や「何もしていないのに笑われる」といった内容が挙げられました。

あいさつや悪口の件については、学年の初めに互いの関係ができていない中で起こったできごとで様々な学習活動で一緒に過ごす中で徐々に関係が良くなってきました。生徒全員に「相手の気持ちになって…」「自分だったら、どう思う？」などの指導・対応をし、生徒一人一人が自分自身のこととして考えることができ、より良い関係へとつながることができました。

「笑われること」に関しては、「笑っていること」で馬鹿にしたり、嫌な気持ちにしたりするために「笑っている」わけではないということを丁寧に伝えるようにしたところ、「笑われている」わけではないということを理解し、その後より良い関係作りに結び付けることができました。笑ってしまう生徒に関しては、場に応じた情緒のコントロールが難しいことで場面や相手に関係なく笑ってしまうことがあるため保護者や医療機関等とも連携しながら指導を行っているところです。

このように、「いじめに関するアンケート」を実施したことで、子どもたちの様々な状況を知る良い機会となっております。今後もいじめに関するアンケートや個別面談等を継続的に実施していきながら、子どもたちの悩みや不安などを早期に発見・解決したり、問題に発展しそうな行動を未然に防止したり、将来に向けての支援をまいります。

